

研究部通信

令和2年4月10日(金) No.1
研究部(牧野・早坂)

チーム研究、ついに始動！ ～共同研究2年次スタート～

6日(月)に共同研究「学校教育目標『体も心もたくましく、しかも、しなやかな子供』を目指して～本質に迫る授業を通して～」の2年次スタートとして研究全体会Ⅰを行いました。附属小学校の新たな研究のアプローチとして進める“チーム研究”についても確認し、“教科部研究”との相乗効果で学校教育目標の具現化を目指します。

午後には、1回目のチーム部会を開きました。学校教育目標をブレイクダウンして設定した五つの資質・能力について、紐付く教科部ごとのチームで話し合う場です。それぞれのチームで話題になったことを、お伝えします。

<話し合いでの問い>

問い1 「体も心もたくましく、しかも、しなやかな子供」がもつ「○○力」とはどのようなものか。

問い2 チーム内のそれぞれの教科の「本質に迫る授業」で「○○力」が育つ・発揮される授業はどのようなものか。

※ 黒字はシートの記録に基づくもの、赤字は研究部の解釈によるものです。

★言語力★ チーム:国語部, 英語部

- 相手によってどう伝えていくかを意識し、自分の考えを表出する力と言えるのではない
⇒ 言語(言葉)選択・調整力 = よりよいコミュニケーションを図る力
表現力・調整力と近似?
- 多面的・多角的なコミュニケーションも目指したい
思考スキルの共通性 問題解決力にも通ずる
- 英語科でのやりとりが国語科に生かされ、国語科の細かいところまでの読み取りが英語科で生かされる
⇒ 「相手に伝わる」というのが共通点 相手を意識して 言葉に敏感に



★問題解決力★ チーム:社会科部, 生活科部, 家庭科部

- 家庭科は生活における実践、社会科は資料などの調査、生活科は生活の中の気づきを通して多面的・多角的に、多様に追究していく
やはり思考スキルの共通性
よりよい解決に向かう“しなやかさ”とも言える
- 「主体的に」という部分が共通する=仮の串を「前のめり」にする
⇒ 子供自身に学びのプロセスを自覚化させたい
各教科の「本質に迫る授業」との結び付く(例:社会科の視点1)



★活用力★ チーム:算数科部, 理科部, CS部

- 算数科では系統性の強さがあり、活用することが本質
- 理科では、学びを生活・次の学習・他教科に生かしたい
- CSは、情報活用能力が重要
⇒ 活用する中でたくさん失敗してもいい 解決までの見通しをもって
取り組む力を高めたい 問題解決力にも当てはまる



★表現力★ チーム: 図画工作科部, 音楽科部, 体育科部

- 表出したものだけが「表現」ではなく、表出に至るまでの過程も「表現」と捉えられるのではないか
⇒ でき上がったもの（成果物や演奏など）だけを「表現」と捉えない 問題解決的な過程
- 何より、子供の実態・課題に応じた表現を目指したい
- 「したい!」という気持ちが出て、初めて「表現」となる
+ 無意識に生まれる「表現」もある
- 公開研究会の協力者の先生が「精度が低くとも、試行錯誤を活発に行っている子供の姿こそ『表現』」と話されていた
- 表現力の仮の押さえ：自分の思い（考え）を試す力



★調整力★ チーム: 道徳部, 特別活動部, 「食と健康」部

- 人の意見を聞く、自分の意見を変えることが「調整」と言える
= 人間関係調整
- 自分の身体を思ったように動かすこと = 心のコントロールが「調整」
表現力と似ている
- よりよく生きるために自己内対話をする 他者との対話も
⇒ 子供のプロセスの姿を見取る 他のチームと重なる点
- 自分の考えと相手の考えが違うときに、行動を変えようとしている姿
= 調整力?



★共同研究全体に関わるものとして…

- 子供の主観調査も必要 評価・分析の在り方の模索をしていく
- 互いに授業を見合って、具体的な子供の姿で語っていく
- 一人一人をちゃんと見よう 目の前の子供を大事にする



【今年度初めての教科部会 新体制での研究にわくわくドキドキ】

研究部:より

今年度の題字は、佐々木副校長先生に書いていただきました。たくましさとしなやかさを感ずる線の流れに見守られながら、研究を進めていきましょう。

各教科部で考える「本質に迫る授業」と研究仮説の検証を進める“教科部研究”，探究的な学習（総合的な学習の時間）の充実を目指す“学年研究”，そして“チーム研究”の三つのアプローチで研究に取り組む2年次。「目の前の子供を大事する」とともに、子供の姿を通して授業を評価することで、私たちの授業力向上を図りながら「体も心もたくましく、しかも、しなやかな子供」を育てていきます。

やりたいことを見付けながら、みんなで研究を楽しんでいきましょう！